

Title	わが国の医・歯・薬学部における東洋医学教育(第1報) : 実施状況とカリキュラム中での位置づけ
Author(s)	亀山, 敦史; 王, 宝禮; 野呂, 明夫; 市村, 葉; 瀧, 邦高; 砂川, 正隆; 戸田, 一雄; 平井, 義人; 高橋, 一祐
Journal	日本歯科東洋医学会誌, 27(1-2): 15-22
URL	http://hdl.handle.net/10130/1928
Right	

わが国の医・歯・薬学部における東洋医学教育

—第1報 実施状況とカリキュラム中での位置づけ—

亀山 敦史^{1,2,3)} 王 宝禮^{4,5)} 野呂 明夫³⁾
 市村 葉⁶⁾ 瀧 邦高⁷⁾ 砂川 正隆⁸⁾
 戸田 一雄⁹⁾ 平井 義人²⁾ 高橋 一祐¹⁰⁾

¹⁾東京歯科大学口腔科学研究センター HRC7

²⁾東京歯科大学保存修復学講座

³⁾東京歯科大学千葉病院総合診療科

⁴⁾松本歯科大学歯科薬理学講座

⁵⁾松本歯科大学病院口腔内科外来

⁶⁾明海大学歯学部機能保存回復学講座保存修復学分野

⁷⁾大阪大学歯学部附属病院歯科麻酔科

⁸⁾昭和大学医学部第一生理学教室

⁹⁾長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 生命医科学講座 生体情報科学分野

¹⁰⁾東京歯科大学名誉教授

Education of Oriental Medicine at Medical, Dental, and Pharmaceutical Schools in Japan

—Part 1 : Current Status and Placement in the Educational Curriculum—

Atsushi Kameyama^{1,2,3)}, Pao-Li Wang^{4,5)}, Akio Noro³⁾, Yoh Ichimura⁶⁾,
 Kunitaka Taki⁷⁾, Masataka Sunagawa⁸⁾, Kazuo Toda⁹⁾
 Yoshito Hirai²⁾ and Kazuyu Takahashi¹⁰⁾

¹⁾Oral Health Science Center HRC7, Tokyo Dental College

²⁾Department of Operative Dentistry, Tokyo Dental College

³⁾General Dentistry, Tokyo Dental College Chiba Hospital

⁴⁾Department of Pharmacology, Matsumoto Dental University

⁵⁾Oral Medicine, Matsumoto Dental University Hospital

⁶⁾Division of Operative Dentistry, Department of Restorative & Biomaterials Sciences, Meikai University School of Dentistry

⁷⁾Dental Anesthesia, Osaka University Dental Hospital

⁸⁾Department of Physiology, School of Medicine, Showa University

⁹⁾Department of Integrative Sensory Physiology, Unit of Basic Medical Sciences,

Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences

¹⁰⁾Professor Emeritus, Tokyo Dental College

2008年7月2日受付

2008年7月14日受理

連絡先：〒261-8502 千葉県美浜区真砂1-2-2

東京歯科大学保存修復学講座 亀山敦史

電話 043-270-3958 FAX 043-270-3959

E-mail : kameyama@tdc.ac.jp

Abstract

Recently, the number of Japanese medical schools which include the education of oriental medicine, traditional Asian (Chinese, Japanese, and the others) medicine, and complementary and alternative medicine has increased significantly. However, it has not been reported the current status of the education of oriental medicine in the dental, and pharmaceutical schools in Japan. Therefore, we compared the current status of the education about oriental medicine in the medical, dental, and pharmaceutical schools in Japan.

We have received the reply of the questionnaire survey from 34 of 80 medical schools (42.5%), 20 of 29 dental schools (69.0%), and 40 of 74 pharmaceutical schools (54.1%). In these schools, the numbers (percentages) which have been already educated oriental medicine or which will be educate that in the near future were 33 medical schools (97.1%), 8 dental schools (40.0%), and 37 pharmaceutical schools (94.9%). Inclusion of oriental medicine into the educational program becomes essential at both the medical and pharmaceutical schools. In contrast, the popularization of the oriental medicine has been insufficient at the dental education programs in Japan.

Key words : Questionnaire survey, Oriental medicine, Educational program

I. 緒 言

東洋医学のもつ基本的概念は、東洋古代の哲学的思想に色濃く影響を受けており、いわゆる現代西洋医学のもつ、その科学的で分析的な観点と大きく異なる。そのため、わが国では従来、医学教育における東洋医学との積極的なかわりを敬遠してきた。しかしながら、経験の積み重ねによって裏付けられたその医学体系は、決して否定できるものではなく、今でも西洋医学を修めた多くの医療従事者により支持されている。

1990年代、欧米では現代西洋医学の範疇に属さない医療体系、いわゆる代替・相補医療 (CAM: Complementary and Alternative Medicine) の再評価が図られ、大学の医学教育においても CAM の積極的導入が試みられるようになった¹⁾。わが国でも、2001年に制定された医学教育モデル・コア・カリキュラムにおいて、薬物療法の基本原理の一つに「和漢薬を概説できる」という項目が加わったことを機に、東洋医学や伝統医学、あるいは CAM を医学教育に取り入れる大学医学部が急増した²⁾。ところが、近年の大学歯学部における東洋医学の教育状況について、報告はみられない。

そこでわれわれは、わが国の大学医・歯・薬学部における東洋医学の教育状況をアンケートにより調査した。本稿では特に、東洋医学教育の実施状況や、カリキュラム中での位置づけについて紹介する。

II. 調査対象および方法

1. 調査対象

本アンケート調査は、全国の医学部、歯学部、薬学部に対して行った。ただし、同じ大学で医・歯・薬学系の学部を複数有する大学については、それぞれの学部に対して調査を行った。すなわち、調査対象は医学部 80 校、歯学部 29 校、薬学部 74 校の計 183 校である。

2. アンケート内容

各大学に配布したアンケート依頼状およびアンケート用紙を図 1、表 1 に示す。学部の違いによる組織体系の相違を考慮し、アンケート内容は医・歯学部用と薬学部用の 2 種類を用意した。医・歯学部用では、東洋医学教育の現況に対する質問 5 項目、今後の教育予定に関する質問 2 項目、附属病院での東洋医学的治療の導入状況に関する質問 1 項目の計 8 項目とし、薬学部用では附属病院での導入に関する質問を除いた 7 項目とした。このうちのいくつかについては、1986 (昭和 61) 年当時との比較ができるよう、矢数ら³⁾の行ったものに準じた質問内容とした。

なお本報では、質問 1 (学部教育の有無)、2 および 3 への回答について、検討を行った。

3. 調査期間

本調査は、平成 19 年度日本歯科東洋医学会理事会 (平成 19 年 11 月 23 日) にて承認を得て行った。各大学・学

平成 19 年 12 月 13 日

大学 学部
教務責任者 殿

日本歯科東洋医学会
会長 高橋一祐

東洋医学教育状況調査アンケートのお願い

謹啓

貴大学におかれましては、益々ご発展のこととお慶び申し上げます。

さて、私共 日本歯科東洋医学会は、このたび日本歯科医学会の認定分科会へ加入が承認されたことを機に、学会として歯学部教育における東洋医学の状況を知ることが今後の学会活動の進展に極めて大切で、必要であると思われました。そこで、東洋医学教育の実態を把握するため、わが国の全医・歯・薬学部を対象にアンケート調査をお願いしたいと思っております。

つきましては何卒本調査の趣旨をご理解いただき、ご多忙のところ誠に恐縮ですが本調査にご回答賜りますようお願い申し上げます。また誠に勝手ながら、平成 20 年 2 月 15 日までに同封の返信用封筒にてご返送いただければ幸いです。集計の結果につきましては、あらためてご報告させていただきます。

敬具

日本歯科東洋医学会事務局
担当 田中純一郎
〒170-0003
東京都豊島区駒込 1-43-9
(財) 口腔保健協会内
TEL : 03-3947-8891
FAX : 03-3947-8341

図 1-1 各大学の学長・学部長宛アンケート依頼状 (a) 教務関係者宛

部の教務担当者および学長・学部長に対し、日本歯科東洋医学会会長 高橋一祐名義にて依頼した。本アンケートの依頼は平成 19 年 12 月 13 日付で送付し、翌 20 年 2 月 15 日付の返答をもって締め切り、集計を行った。なお、締め切り 1 週前の段階で未回答の大学・学部については電話にて教務担当者に連絡し、回答の意思の有無について確認を行い、意思がある場合には若干の期間延長を認めた。

Ⅲ. 結 果

1. 返答率

本アンケートに対し、医学部 34 校 (42.5%)、歯学部 20 校 (69.0%)、薬学部 40 校 (54.1%) から返送があった。このうち、鈴鹿医療科学大学薬学部については、平成 20 年度からの新規開設であることを理由に、回答辞退の申し出があった。

2. 学部教育における東洋医学教育実施率

学部教育における東洋医学教育導入状況を図 2 に示す。なんらかの形で東洋医学教育を行っている、またはカリキュラム上で導入の予定がすでに決定していると回答した大学は、医学部 34 校中 33 校 (97.1%)、歯学部 20 校中 8 校 (40.0%)、薬学部 39 校中 37 校 (94.9%) であった。このうちアンケート回答時には実施されていなかったものの獨協医科大学は平成 20 年度から、いわき明星大学薬学部、京都薬科大学は平成 21 年度からの実施がカリキュラム上ですでに予定されている。

医学部における実施校はすべて必修科目として実施されていると回答したが、歯・薬学部のうち東北薬科大学、城西大学薬学部、東邦大学薬学部、昭和薬科大学、帝京大学薬学部、大阪大学薬学部、広島国際大学薬学部、徳島文理大学薬学部、福岡大学薬学部、長崎大学薬学部の 10 校は「選択科目のみ」との回答があり、また大阪歯科大学、千葉科学大学薬学部、北里大学薬学部、静岡県立

平成 19 年 12 月 13 日

大学 学部
学長（学部長） 殿

日本歯科東洋医学会
会長 高橋一祐

東洋医学教育状況調査アンケートについてのご依頼

謹啓

貴大学におかれましては、益々ご発展のこととお慶び申し上げます。

さて、私共 日本歯科東洋医学会は、このたび日本歯科医学会の認定分科会へ加入が承認されたことを機に、学会として歯学部教育における東洋医学の状況を知ることが、これからの学会活動の進展に極めて大切で、且つ重要であると考えております。

つきましては、アンケート用紙を教務関係者にお送り致しましたので、何卒趣意をご高察いただき、ご多忙のところご面倒をおかけし誠に恐縮ですが、アンケートにご回答賜りますようご指示の程、よろしくお願い申し上げます。

集計の結果につきましては、あらためてご報告させていただく予定でございます。また、アンケートの内容を同封させていただきました。

敬具

日本歯科東洋医学会事務局
担当 田中純一郎
〒170-0003
東京都豊島区駒込 1-43-9
(財) 口腔保健協会内
TEL: 03-3947-8891
FAX: 03-3947-8341

図 1-2 各大学の学長・学部長宛アンケート依頼状 (b) 学長・学部長宛

大学薬学部の 4 校については、「従来選択科目であったが、平成 20 年度から必修化する」との回答であった。

一方、岩手医科大学歯学部については、「以前行っていたが現在は行っていない」との回答、また東京歯科大学については、昭和 40 年代から平成 13 年まで歯科麻酔学講義のユニットにおいて 1 コマ、東洋医学や統合医療についての講義を行っていたが、現在は学部教育を行っておらず、大学院教育において選択科目として行っているとの回答であった。

3. 教育実施科目（ユニット）について

東洋医学教育実施校のうち、ユニット名に「東洋医学」「統合医療」「漢方医学」など、関連項目名を含む大学は医学部 33 校中 16 校 (48.5%)、歯学部 8 校中 4 校 (50.0%)、薬学部 39 校中 27 校 (69.2%) であった。それ以外の大学では、医学部で薬理学・薬物学 (8 校)、公衆衛生学 (1 校) のユニット中で、歯学部では歯科麻酔学

(2 校)、薬理学 (1 校) のユニット中で、薬学部では生薬学 (4 校) のユニット中で実施しているとの回答であった。

4. 開講年度について

医学部では、昭和 50 年度から開始したと回答したのが福井大学医学部、香川大学医学部の 2 校で、いずれも薬理学のユニットで教育を行っている。その他の大学については、そのほとんどが平成 10 年代に入ってから教育を開始したとの回答であった。

歯学部では、東京医科歯科大学歯学部、日本大学松戸歯学部の 2 校が昭和 40 年代から、いずれも歯科麻酔学のユニット中で教育を開始している。その他の大学については、いずれも平成 10 年代以降に教育を開始したとの回答であった。

薬学部では、昭和 40 年代、あるいは 50 年代から開始したと回答のあった大学が 12 校あった。一方で、平成 10 年代後半から開始したとする大学も多かった。

表 1 アンケート用紙 (医・歯学部用)

《東洋医学教育状況調査アンケート》

以下の内容に対して、該当事項に○、あるいは必要事項を記入してください。

1. 貴学部では現在、東洋医学（漢方・鍼灸など）の教育が制度として行われていますか。（自由講座・セミナーなどを含む）
 - a. 現在行われている（以下にもお答えください：重複回答可）
 - ① 学部正規教育 ② 学部選択科目 ③ 教養科目 ④ 独立講座あり
 - ⑤ 大学院教育 ⑥ 卒後研修 ⑦ 同好会 ⑧ その他

（誠に手数ですが、その内容が記され、貴学部で学生に配布している講義要覧、シラバスなどの資料がございましたら、当所にご送付くださるようお願いいたします。なお、送料は折り返し切手にて返送させていただきます。）
 - b. 以前から現在に至るまで行っていない
 - c. 以前行っていたが、現在は行っていない
（過去の教育状況について、空欄に詳細をご記入ください）
 - d. その他（ ）
2. (1. で「行われている」と答えた場合のみ) いつごろから、どのような形で行われていますか。（例：昭和 59 年度から現在まで、3 年次薬理学講義の中で 1.5 時間/年）
3. (1. で「行われている」と答えた場合のみ) 東洋医学教育の実際について、どの範囲を網羅していますか。（重複回答可、該当するものに○をつけ、そのうち重点を置いている順に番号をつけてください。）
 - ① 東洋医学概論（順位： ）
 - ② 漢方医学（順位： ）
 - ③ 鍼灸医学（順位： ）
 - ④ その他（順位： ）（内容の詳細： ）
4. (1. で「行われている」と答えた場合のみ) 東洋医学教育における、教育担当者の分担状況についてお教えてください。
 - ① すべて専任教員
 - ② 主に専任教員、一部非常勤教員（あるいは外部への依頼）
 - ③ 主に非常勤教員（あるいは外部への依頼）、一部専任教員
 - ④ すべて非常勤教員、あるいは外部への依頼
 - ⑤ その他

※ その実態について、もしさらに詳細をお教えいただけるようでしたら、下記をお願いいたします。
5. (1. で「以前から現在まで行っていない」「以前行っていたが、現在は行っていない」と答えた場合のみ) 貴学部の教育カリキュラムに、現在東洋医学・伝統医学が組み込まれていないのは次のどの理由によるとお考えですか。（重複回答可）
 - a. 非科学的な部分が多く、学問としての体系に欠ける
 - b. 国や学界が教育の必要性を認めていない
 - c. 教育する時間がない
 - d. 教育を担当する人材がいらない
 - e. その他（ ）
6. 貴学部では、今後も、あるいは今後新たに東洋医学教育を実施する予定がありますか。
 - a. ある b. 検討中 c. 未検討 d. 予定はない
7. 貴学部にて今後東洋医学教育が行われるならば、次のどの課程で行うのが適切とお考えですか。（重複回答可）
 - ① 学部正規教育 ② 学部選択科目 ③ 教養科目 ④ 独立講座
 - ⑤ 大学院教育 ⑥ 卒後研修 ⑦ 同好会 ⑧ その他
8. (医学部、歯学部のみ) 現在、貴大学の附属病院で東洋医学的治療を取り入れていますか。
 - ① はい ② いいえ

（「① はい」の場合のみ）

 - 1) 導入している診療科をお教えてください。
 - 2) 主な東洋医学的治療手段は何ですか。
 - (ア) 漢方治療のみ (イ) 鍼灸治療のみ (ウ) 漢方>鍼灸
 - (エ) 漢方<鍼灸 (オ) その他（具体的に教えてください）
9. その他、ご意見などございましたら、以下にご自由にご記入ください。

貴大学・学部名： _____

学長（学部長）先生ご芳名： _____

教務担当責任者ご芳名： _____

お問い合わせ先お電話番号： _____

お問い合わせ先メールアドレス： _____

（ご返送いただいたアンケート内容について、お電話または E メールにて直接お伺いする場合がございますので、どちらか一方は必ずご記入のほどよろしくをお願いいたします）

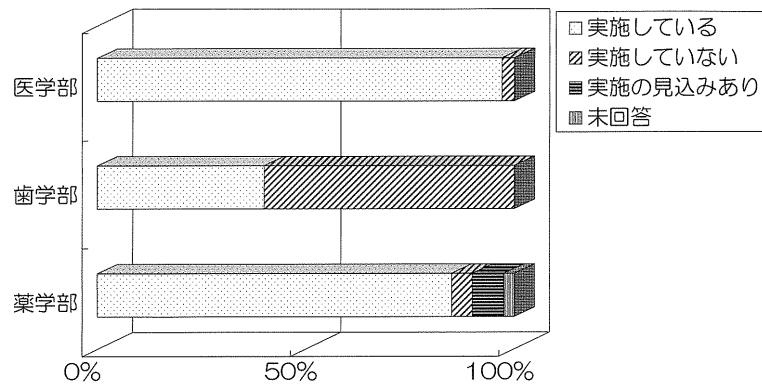


図 2 医・歯・薬学部における東洋医学教育導入状況

表 2 医・歯・薬学部の東洋医学教育における、各分野の比重

	医学部	歯学部	薬学部
漢方のみ	14	2	29
漢方>鍼灸	16	1	3
漢方=鍼灸	2	2	0
漢方<鍼灸	0	1	0
鍼灸のみ	0	1	0
東洋医学概論のみ	0	1	0
未回答	1	0	5
合計	33	8	37

5. 教育範囲について

東洋医学教育実施校における、教育の範囲に関する回答のうち、特に漢方と鍼灸の教育の比重を比較したものを表 2 に示す。

医学部および薬学部については、鍼灸についての教育を行わず、漢方のみを教育している、あるいは鍼灸より漢方をメインに教育している大学が大半を占め、2校のみが漢方と鍼灸をほぼ対等に教えているとの回答であった。漢方より鍼灸に重きをおいて教育していると回答した大学は皆無であった。

歯学部については、漢方のみを教えていると回答した大学が 2 校（徳島大学歯学部、松本歯科大学）、漢方により重きをおいていると回答した大学が 1 校（大阪歯科大学）であったのに対し、漢方より鍼灸に重きをおいて教育している、あるいは鍼灸を教育しているが漢方は教育していないと回答した大学（大阪大学歯学部、日本大学松戸歯学部）が存在した。

IV. 考 察

遺伝子構造の解析や遺伝子操作による医療、患者権利の尊重、患者の予防医学に対する関心、EBM に基づく

医療の推進と患者説明、医療の国際化など、医療界の情勢は今世紀に入り、さまざまな方面で変化してきた。このような変化に対応すべく「21 世紀における医学・歯学教育の改善方策について：医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議：2001 年 3 月 27 日」が発表された。ここで同時に医学教育モデル・コア・カリキュラムが公表され、薬物療法の基本原理のなかで「和漢薬を概説できる」という項目が取り入れられたことを契機に、わが国の医学部教育でも、東洋医学や漢方医学についての授業導入が不可欠となった。1986（昭和 61）年の時点でわずか 8% しかなかった医学部の東洋医学教育実施率^{3,4)}は、これ以降年々増加の一途をたどり、現在では約 90% にまで上昇した⁵⁾。また、医学部の学生や教員の東洋医学に対するイメージも、「うさんくさい」「エビデンスに乏しい」というものから「価値がある」「医師として使用したい」という意識的变化がみられている⁶⁻⁸⁾。また、医学部における東洋医学教育の充実は、薬学部教育にも及び、単なる生薬学にとどまらず、東洋医学の概念を教育するものへと変化してきていることが窺えた。

一方で、歯学部では 1986 年の時点で、すでに 4 割を超える大学での東洋医学関連教育が実施されていたとの報告³⁾があるが、今回の調査においてもほぼ同程度の教育

実施率にとどまり、医・薬学部とは全く異なる傾向を示した。特に、1986年当時、学部での東洋医学教育を行っていたと思われる12校のうち5校（日本歯科大学生命歯学部、日本歯科大学新潟生命歯学部、岩手医科大学歯学部、東京歯科大学、福岡歯科大学）が、今回の調査において東洋医学教育を「行っていない」と回答した。このうち岩手医科大学歯学部および東京歯科大学の2校は、「以前学部教育を行っていたが現在は行っていない」と回答し、残る3校（日本歯科大学生命歯学部、日本歯科大学新潟生命歯学部、福岡歯科大学）は、以前教育していたはずであるにもかかわらず「過去から現在に至るまで教育していない」という回答であった。今回の調査は、各大学の教務担当者宛に送付しているため、シラバスやカリキュラムに存在しないが病院各科内の臨床実習で教育されている場合も考えられ、このような場合には教務関係者が実態を把握しておらず、「教育していない」という回答になることも考えられる。いずれにせよ、正規のカリキュラムに組み込まれていないことを考えると、歯学部における東洋医学教育の導入に関して、医学部や薬学部と比べて消極的であることが示唆された。この理由の一つに、教育担当者の不足や、教育体制の不備が考えられた。

東洋医学教育の実施ユニットについても、学部による傾向の違いが明らかとなった。薬学部では、回答のあった大多数の大学で、東洋医学、和漢薬治療学、漢方医学などの独立ユニットをもっているのに対し、医学部では東洋医学系独立ユニットを有するのは約半数にとどまり、その他の大学では薬理学、薬物学中に組み込まれているか、あるいは総合講義や特別講義として扱っているとの回答であった。また、歯学部で昭和時代から東洋医学教育を開始している2大学ともに、歯科麻酔学のユニット内で東洋医学教育を実施しているとのことであった。すなわち、医学部と薬学部における東洋医学とは漢方、和漢薬をイメージした、いわゆる湯液療法を指し、歯学部における東洋医学とは、鍼麻酔や鍼鎮痛をイメージした、いわゆる鍼灸系東洋医学療法を指す傾向が窺えた。また、この相違が、東洋医学そのものに対するイメージの違いとなって現れている可能性も考えられ、今後さらなる検討が必要であると思われた。

医学部、薬学部ともに、過去10年の間に東洋医学教育を新規導入した大学が多く認められた。医学部については、先に述べた医学教育モデル・コア・カリキュラムの制定が多大なる影響を与えているものと考えられた。一方で、薬学部における東洋医学教育の新規導入が近年多くみられる理由は、単に新設校が多いことに由来するものと思われた。

医学部および薬学部で東洋医学教育導入が加速化され

ている時代背景については、種々の疾患に対する東洋医学的療法のEBMが徐々に確立してきたこともその理由の一つに挙げられる⁹⁾。一般医科領域に比べてその加速度は決して大きくないものの、口腔疾患に対する東洋医学的療法の科学的なメカニズム解析についても徐々に進んできていることは事実であり¹⁰⁾、歯学部も医・薬学部と同調すべきであることは明白である。平成19年度、日本歯科東洋医学会は日本歯科医学会の認定分科会の一つとして承認された。これを機に、歯科医学にマッチした東洋医学の教育体制や教材を学会が中心となって整備・開発し、各歯科大学・大学歯学部への導入を働きかけるなど、学会としての積極的な大学教育への介入を行う必要があるのではないだろうか。また、東洋医学教育の普及に最も必要な指導者養成についても、その具体的な養成プログラムを早急に考案することが望まれる。すでに、歯科衛生士教本には漢方医学に関する内容が盛り込まれており¹¹⁾、歯科医学教育への導入についても待たなしの状況まで来ている。近い将来、歯科医学教育モデル・コア・カリキュラムへの東洋医学的療法の導入、共用試験歯学系 CBT や歯科医師国家試験に東洋医学が組み込まれることになれば、ひいては東洋医学療法の健康保険導入にもつながる可能性が高くなるであろう¹²⁾。

V. 結 論

本調査では、医・歯・薬学部の東洋医学教育に関する実態を調べ、その結果から以下の結論を得た。

1. 医学部、薬学部における東洋医学教育の導入は急増しているが、その傾向は歯学部には該当せず、20年前に実施された同様の調査とはほぼ同等の割合であった。

2. 東洋医学教育の実施は、薬学部においては東洋医学系独立のユニットで行われている大学が大多数であったが、医・歯学部で独立ユニットを有する大学は約半程度であった。また、東洋医学系の独立ユニットを有していない大学については、医学部では薬理学や薬物学、歯学部では歯科麻酔学、薬学部では生薬学のユニット内で教育を行っていることが明らかとなった。

本調査を行うにあたり、ご協力いただいた各大学の関係者に対し、ここに感謝の意を表します。また、本調査は北里研究所東洋医学研究所により行われた1986年の調査を参考に計画されたものであり、当時調査を担当された真柳誠先生（現・茨城大学人文学部教授）には多大なるご指導をいただきました。よってここに深く感謝の意を表します。

本調査の一部は、文部科学省の私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業により助成を受けた、東京歯科大学口腔科学研究センター HRC7 の研究費により遂行された。

文 献

- 1) 鶴岡浩樹, 鶴岡優子: 米国の医学部における相補代替医療の教育—相補代替医療の国際会議におけるワークショップ—, 医学教育, 34(4): 271~275, 2003.
- 2) 鶴岡優子, 鶴岡浩樹, 梶井英治: 全国医学部における相補代替医療教育の現状—追跡調査 1999~2004—, 医学教育, 36(5): 323~328, 2005.
- 3) 矢数道明, 真柳 誠, 室賀昭三, 小曾戸 洋, 丁 宗鉄, 大塚恭男: 医学・薬学教育における伝統医学 (I)—医・歯・薬科大学カリキュラムの現況—, 日東洋医誌, 38(2): 91~102, 1987.
- 4) 矢数道明, 真柳 誠, 室賀昭三, 小曾戸 洋, 丁 宗鉄, 大塚恭男: 医学・薬学教育における伝統医学 (II)—医・歯・薬科大学伝統医学教育の展望—, 日東洋医誌, 38(2): 103~112, 1987.
- 5) 林 善彦: 長崎大学歯学部の新科目「歯科東洋医学」の開講にあたって, 日歯東洋医誌, 22(1・2): 131~133, 2003.
- 6) 浅岡俊之: 医学部学生を対象とした東洋医学に対する意識調査, 日東洋医誌, 51(2): 287~293, 2000.
- 7) 笠原多嘉子, 越石直巳, 木暮守宏, 相馬利光, 池本英志, 久光直子, 石野徳子, 久光 正: 医学部学生, 基礎・臨床医学教員における東洋医学の教育, 研究および診療の動向, 日東洋医誌, 53(4): 357~366, 2002.
- 8) 吉野千寿子, 山本竜隆, 吉田勝美: 医学部学生の代替医療に対する意識に関する調査, Health Sciences, 21(1): 88~97, 2005.
- 9) 寺澤捷年, 喜多敏明: EBM 漢方, 初版, 医歯薬出版, 東京, 2003.
- 10) 板井丈治, 藤垣佳久, 荒 敏昭, 今村泰弘, 柳沢 茂, 王 宝禮: 糖尿病性口腔乾燥症モデル動物に対する漢方薬の唾液分泌改善作用の検討, 日歯東洋医誌, 27(1・2): 9~14, 2008.
- 11) 王 宝禮 (全国歯科衛生士教育協議会監修): 11 章 漢方医学と薬 (最新歯科衛生士教本: 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学), 149~152, 医歯薬出版, 東京, 2008.
- 12) 王 宝禮, 王 龍三: 今日からあなたも口腔漢方医—チェアサイドの漢方診療ハンドブック—, 初版, 医歯薬出版, 東京, 2006.